

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 加賀福祉サービス	代表者	中村 眞	法人・事業所の特徴	J A加賀を母体とした事業所で、法人として居宅系サービス事業も提供しています。隣接の畑で地域の方々の協力をいただき野菜を育て、その過程を楽しんでいただけるようにしています。「家におりたい」というご本人の言葉を大切に、特別な支援ではなく普段と変わらない穏やかな1日を‘えがお’で過ごして頂けるように法人理念をもとに取り組んでいます。
事業所名	小規模多機能ホームなんごうえがお	管理者	南出明子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	4人	人	人	1人	人	2人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>事業所の中期目標（3年後）として</p> <p>1 支援の振り返りがきちんと出来るようになる（事例検討会を定期開催できるように）</p> <p>2 南郷地区のイベントやサークル等に全スタッフが参加した経験をもつ</p> <p>3 南郷地区で事業所の担える役割を見つけられる</p> <p>◆R2年度</p> <p>①毎月の職員会議で事例からテーマを決め意見交換していく。研修受講者は必ず伝達講習をする</p> <p>②スタッフ1～3名が管理者と共にサークル等に参加</p> <p>③運営推進会議か会合へ、管理者とケアマネジャーが主に参加</p>	<p>・コロナ禍のため、地域へ出かける目標は殆ど実行出来なかった。状況により見直しが必要</p> <p>・スタッフ会議で出来た“出来ない”ことについて意見を出し合った。改善計画について、スタッフ周知が十分でなかったため、実施可能な内容で立案した</p> <p>・毎年「あまりできていない」に評価が偏る項目について話し合い、実施可能な改善計画を立案した</p>	<p>・「ヒヤリハットについて同じ内容の繰り返しが多くなっている」ということから、多くの計画を掲げ実行していく中で発生しているという可能性はないか？時間外労働はどれくらいか？疲弊して“うっかり”ということになっていないか？</p>	<p>・改善計画を意識出来るように半期毎にスタッフ会議で進捗状況を確認し、見直しや改善点があれば意見を出し合い実行に繋げる。</p>

<p>B. 事業所の しつらえ・環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者やご家族アンケート等で実際の意見をいただき、見直していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの実施はできなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯物たたみ等、ご利用者の方々に出来ることをしてもらえるようになってきているか？ 働き者だった方々ばかりなので、何かすることがあるとよいと思います 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の事業所目標の1つに「サービス満足度を高める」を掲げたので、ご家族アンケートを実施しその結果から改善点を見直していく
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全スタッフのうち、1～3名が地区イベントやサークル等に参加していき、3年かけ全スタッフが参加した経験をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染予防のため、今年度は地域イベントやサークル参加は出来なかった ・隣の貸畑や農協の精米機に来られた際に、事業所の畑で収穫や草むしり等をご利用者と作業していると声をかけていただいたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染症予防の研修会に、サークルリーダーの方と一緒に参加し基本原則が大事であることをしっかり学べ、他の人にも伝えることが出来た 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でイベント計画実行は難しいため、毎月発行の‘えがお通信’に事業所の取組みを掲載していくことを継続 ・事業所の畑を交流機会になることを考えていく
<p>D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者やご家族、地域の方々と一緒に楽しめるイベントを計画していく ・運営推進会議で、はつらつ塾進捗会議やランチ相談の対応報告を行い、どのように地域と各関係機関（医療や介護、民間サービス等）が連携しているのかを知ってもらえるようにする * E と共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であったためイベント計画が出来なかった ・運営推進会議も4か月毎で且つ時間短縮の開催としたため、相談ケースの詳細な報告までは出来なかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染のこともあるので、計画実行は難しいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で開催される行事や会合に参加させていただけるように、運営推進会議で働きかけていく
<p>E. 運営推進会議を 活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者やご家族、地域の方々と一緒に楽しめるイベントを計画していく ・運営推進会議で、はつらつ塾進捗会議やランチ相談の対応報告を行い、どのように地域と各関係機関（医療や介護、民間サービス等）が連携しているのかを知ってもらえるようにする * D と共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため、事業所でなく地区会館で開催としたが、4か月毎で時間短縮のため報告し合う内容になった 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議では、高齢者のことが主になるが小学校のこと、今年度はコロナ対策のことも報告や説明があったので、知らないことを知ることが出来た 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は、会議参加者の交代割合が高くなるため、新たな参加者の方々に運営推進会議を知っていただき、多くの意見が出しあえる場にしていきたい

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の防火訓練に運営推進会議メンバーの方や防災士、防災リーダーの方々に参加していただき、防災計画の評価を受け見直していく。その取組みを通して、ネットワーク構築に繋げていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月の運営推進会議に防災士の方に参加していただき南郷地区独自の防災計画やハザードマップの見方の説明を聞くことが出来た。また事業所の災害時の対応について意見をいただくことが出来た 	<ul style="list-style-type: none"> ・以前のように地域住民参加型の防火訓練を開催することは難しく、今年度町ごとに防災士や区長、民生委員で高齢者世帯や独居者宅を訪問するようにしました。 ・地区全体が防災に対する意識が高いと感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の防火訓練だけでなく、スタッフ会議で防火管理者から災害対策について説明する機会を設け、意識付けしていく
----------------------------	---	---	--	---

